

京都市生物多様性プランに基づくリーディング事業の取組状況等について

平成 26 年 3 月に策定した「京都市生物多様性プラン～生きもの・文化豊かな京都を未来へ～」(以下「プラン」という。)に基づき実施してきた取組の進捗状況について、平成 28 年度以降に実施したリーディング事業を中心に報告する。

1 生きものの生息環境の保全

(1) 京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度

京都の祭りや文化を支えてきた生きものの保全・再生のため、活動していただく団体の取組を認定し、必要に応じて技術的な支援のための専門家を派遣する「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」を創設し、推進している。創設以降、18 件のプロジェクトを認定している(平成 29 年 12 月 1 日時点)。

認定 番号	プロジェクト推進者	取組内容	認定年度
1	京都水族館	チマキザサ及びフタバアオイを取り入れた展示	平成 26 年度
2	日新電機株式会社	生物多様性に配慮した緑地の新設・整備	平成 26 年度
3	特定非営利活動法人 K E S 環境機構	フタバアオイ及びフジバカマの保全(156 事業所)	平成 26 年度
4	株式会社京都放送	自社敷地内で育てた原種のフジバカマの展示等	平成 26 年度
5	株式会社洛西ガーデン	自社敷地内の農園でのフタバアオイの保全	平成 26 年度
6	特定非営利活動法人 伏見クラブ	集合住宅内の緑地でのフタバアオイ等の保全	平成 26 年度
7	株式会社松栄堂	希少植物の育成・保護及び当該植物の店頭公開	平成 26 年度
8	松尾学区自治連合会	自治連合会管理の公園でのフタバアオイの保全	平成 27 年度
9	三菱自動車工業株式会社 パワートレイン製作所	自社敷地内でのフタバアオイ等の保全	平成 27 年度
10	特定非営利活動法人 K E S 環境機構	ヒオウギ及びキクタニギクの保全(89 事業所)	平成 27 年度
11	桃山地域女性会	女性会員によるフタバアオイの育成	平成 27 年度
12	特定非営利活動法人 K E S 環境機構	オミナエシ及びカワラナデシコの保全(33 事業所)	平成 28 年度

13	株式会社島津製作所	本社敷地内でのフタバアオイ及びフジバカマの育成	平成 28 年度
14	洛西ニュータウン創生 推進連絡会 小畑川活用検討チーム	西京区内の公園における フジバカマの育成	平成 28 年度
15	ヴィサージュジャパン 株式会社	本社敷地内でのフタバアオイの育成	平成 28 年度
16	特定非営利活動法人 K E S 環境機構	アヤメ及びワレモコウの育成（14 事業所）	平成 29 年度
17	特定非営利活動法人 国境なき環境協働ネットワーク	オケラの保全	平成 29 年度
18	株式会社 SCREEN ホールディングス	自社敷地内でのフタバアオイ等の保全	平成 29 年度

2 理解し行動する市民の支援～人づくり～

(1) 京の生きものホットスポット調査

市内の生物多様性保全上重要な場所（ホットスポット）において、活動団体等と連携し、生きものの生息状況のモニタリング調査を行っている。この調査に加え、市内の大学（京都精華大学、京都学園大学、京都工芸繊維大学、京都大学）と連携し、大学キャンパス内の緑地などに生息する生きものの調査を大学生の協力を得て実施している。

(2) 親子生きもの探偵団

京都市の生物多様性の保全に向けた行動の必要性を理解していただくための環境教育・普及啓発の一環として、親子を対象にした自然観察会「親子いきもの探偵団」を開催している。これまでに 21 回開催し、延べ 804 名が参加している。

ア 平成 26 年度開催実績 計 3 回開催、106 名参加

イ 平成 27 年度開催実績

	場所	参加者数
第 1 回	京都水族館	47 名
第 2 回	京都御苑	39 名
第 3 回	洛西ニュータウン（小畑川、洛西竹林公園）	37 名
第 4 回	京都市動物園	38 名
第 5 回	桂川河川敷	40 名
第 6 回	梅小路公園いのちの森	31 名

ウ 平成 28 年度開催実績

	場所	参加者数
第 1 回	平安神宮	43 名
第 2 回	渉成園	39 名
第 3 回	梅小路公園いのちの森	38 名
第 4 回	京都府立植物園	29 名

第5回	合併記念の森（京北）	32名
第6回	京都水族館	41名

エ 平成29年度開催実績

	場所	参加者数
第1回	宝が池公園	42名
第2回	京都御苑	41名
第3回	島津の森	39名
第4回	大原野森林公園	41名
第5回	桂川河川敷	47名
第6回	京都水族館	34名



平成29年度 第2回「京都御苑」



平成29年度 第5回「桂川河川敷」

(3) 地域生きもの探偵団

生物多様性の大切さや豊かな地域の魅力を学ぶことを目的として、市内の小学校が授業等で実施する生きものの観察に、本市が専門家を派遣し、児童が多様な生きものたちのつながり等について学ぶことができる「地域生きもの探偵団」を実施している。これまでに17回開催し、延べ770名の児童が参加している。

ア 平成27年度開催実績

	小学校名	場所	参加児童数
第1回	上賀茂小学校	上賀茂神社 ならの小川	82名
第2回	下京渉成小学校	東本願寺 渉成園	36名※
第3回	境谷小学校	大蛇ヶ池公園	42名
第4回	境谷小学校	小畑川	37名
第5回	池田小学校	山科川	45名

※ 第2回の下京渉成小学校は計2回開催しており、各回に36名参加している。

イ 平成28年度開催実績

	小学校名	場所	参加児童数
第1回	朱雀第四小学校	校内のビオトープ	77名
第2回	高雄小学校	清滝川（清滝橋付近）	42名
第3回	楽只小学校	船岡山	12名
第4回	凌風小学校	鴨川（勸進橋付近）	27名
第5回	百々小学校	大石神社，山科神社	119名

ウ 平成29年度開催実績

	小学校名	場所	参加児童数
第1回	第三錦林小学校	哲学の道	53名
第2回	松ヶ崎小学校	宝が池公園	31名
第3回	京北第二小学校	小学校裏の小川	16名
第4回	安朱小学校	安祥寺川	36名
第5回	新町小学校	京都御苑	79名

(4) まちかど生きもの観察記

子供たちが本市の豊かな自然に触れ、生きもののつながりの大切さなどについて理解を深められるよう、身近なまちかどで発見した生きものの情報を作品にした「まちかど生きもの観察記」を募集し、平成28年度は個人の部は73点、団体の部は24点の作品を応募いただいた。その中から、特に優れた作品21点を表彰し、ゼスト御池で入賞作品の展示を行った。

平成29年度も引き続き募集し、個人の部は117点、団体の部は14点の作品を応募いただいております。今後表彰・展示を行う予定である。



(5) 京都生きもの100選

生物多様性に触れる機会が増え、さらには保全活動への参加につながるよう、市内の身近な自然に関する情報を、①生きものやその生息・生育場所、②生息環境保全の取組、③観光や伝統文化を支える生物多様性の情報の3つの区分に分けて「京都生きもの100選」として取りまとめ、生物多様性専用ホームページ「京・生きものミュージアム」等で紹介している。



深 泥 池



カヤネズミの保護活動(桂川)



京 都 御 苑

(6) 普及啓発活動

ア 啓発イベントの開催

市民や事業者等との共汗により、生物多様性保全活動の輪が広がることを目的に京都市生物多様性セミナーを開催している。

平成29年度は、生物多様性の保全に向けて多様な主体が協働で取り組むことの重要性について講演いただくとともに、「京都市生物多様性保全活動登録制度（詳細は後述）」登録団体の活動事例について発表いただく予定である（平成30年2月1日開催予定）。



平成28年12月2日開催(キャンパスプラザ京都, 100名参加)

イ 市内図書館における生物多様性コーナーの設置

市民の皆様には生物多様性について理解を深めていただくため、環境月間である6月に、市内の各図書館において、生物多様性の関連蔵書を集めた特設コーナーを設置している。



中央図書館



右京中央図書館

ウ 各種イベントでのブース出展

地域で開催されるイベントにブースを出展し、生物多様性に関するパネル展示や啓発物品の配布、動画の再生等、普及啓発を行っている。

(ア) 平成28年度

イベント名	実施日	場 所
西京区民ふれあいまつり	平成28年11月19日	ラクセーヌ周辺
エコまちフェスタ2016	平成28年11月26日	みやこめっせ
四園館連携協定記念PRイベント	平成29年3月22日	コトチカ京都

(イ) 平成29年度

イベント名	実施日	場 所
四園館連携事業 「野性動物学のすすめ2017」	平成29年4月15日	京都市動物園
四園館連携事業 「いきものスケールⅡ」	平成29年10月7日	京都府立植物園
西京区民ふれあいまつり	平成29年11月18日	西文化会館ウエスティ
エコまちフェスタ2017	平成29年11月25日	みやこめっせ



西京区民ふれあいまつり



エコまちフェスタ2017

(7) 普及啓発冊子の発行

平成28年度は以下のア～ウの3種類を発行した。引き続き平成29年度版を発行する予定である。

ア 「京（みやこ）の生きものの発見ガイド」（A5版）（平成29年3月発行）

イ 「京都の社寺と生物多様性 第二号」（A4版）（平成29年3月発行）

ウ 「未来へつなごう！京都の生物多様性」（A5版）（平成29年3月発行）

ア



子どもたちが自然に触れ、生きものを知り、親しむことを目的として、宝が池公園周辺の昆虫、植物、鳥などについて、それらの特徴とともに紹介しています。

イ



京都ならではの自然環境を形づくる重要な要素である、社寺林や庭園の多様な生きものを紹介しています。本冊子では「平安神宮」と「大覚寺」について紹介しています。

ウ



生物多様性の保全活動の輪が広がることを目的として、本市の取組や市内の保全活動団体とその活動内容について紹介しています。

3 活動を促す仕組みとネットワークの構築～ネットワークづくり～

(1) 京・生きものミュージアム～京都市生物多様性総合情報サイト～（平成26年10月開設）

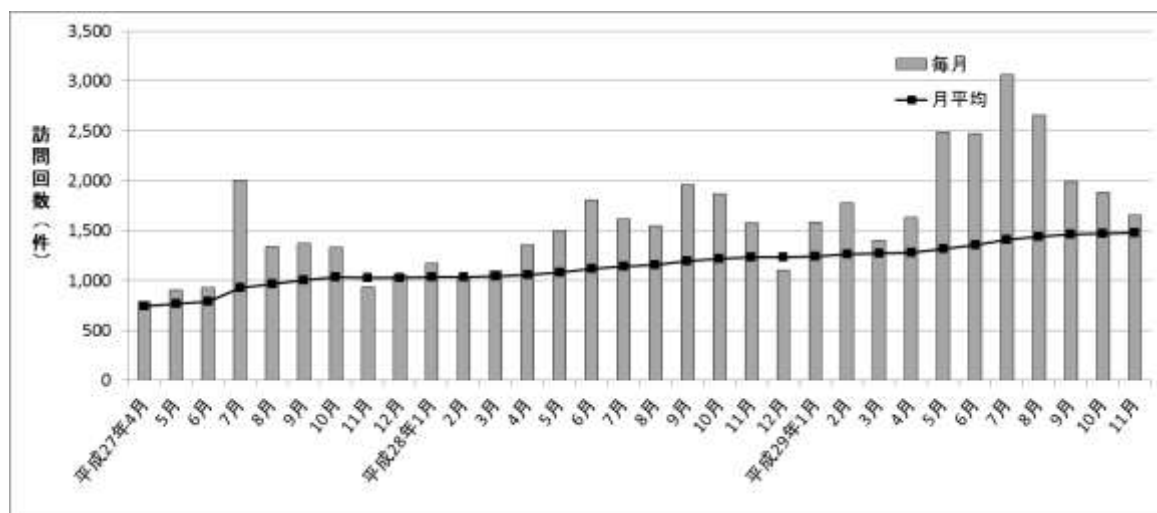
生物多様性に関する様々な情報を収集・発信するとともに、市民、活動団体、事業者など多様な参加者を結び付ける役割を担う生物多様性専用ホームページ「京・生きものミュージアム～京都市生物多様性総合情報サイト～」を開設し、活用している。

ア 訪問回数 累計54,554回（月平均1,474回）

※ 平成28年度 月平均 1,590回

※ 平成29年度 月平均 2,229回（平成29年4月1日～11月30日）

イ 生きもの発見報告数 4,376件



図「京・生きものミュージアム」訪問回数(毎月及び月平均)

(2) 京都市生物多様性保全活動登録制度

生物多様性保全活動に参加を希望する市民の皆様と、市民の皆様の協力を希望する保全活動団体を結び付ける「京都市生物多様性保全活動登録制度」を創設し、運用している。登録の受付や制度の運用は、「京・生きものミュージアム」において行っている。

これまでの登録数は、78名の個人と28団体である（平成29年11月末現在）。

4 課 題

(1) 市民周知の取組の強化

普及啓発活動の更なる推進について

(2) 「京都市生物多様性保全活動登録制度」

登録の促進及び本制度の活性化について

(3) 「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」

希少種の生息域外保全における要配慮事項について